

土砂降りの雨の中で

加藤 誓(ちかい)

6月に台風がやって来るようになった。8号台風の雨に続き、7号台風の大雨。台風は去ったものの、「名東区自然散策会」予定の27日(土)の朝も激しい雨が降っていた。雨かっぱを着て明德公園に出かけた。

集合場所に向かう途中、雨支度をしっかり整えたご婦人が「今日は散策会ありますか?」と話し掛けてきた。

私の場合は、「愛知県環境保全・名東区委員」なので、毎年同じ時期に同じ場所での観察をし、毎月の報告書を提出するようにしているため、仕方なくやって来たのだが、「こんな大雨の中、散策しようとする人がいるんだ!」と驚いた。

いつものスタッフの方達も集まってきたが、やはり散策会は中止となり、皆、集合場所を離れていった。

結局一人で観察することになった。

今年の6月は去年の猛暑とは異なり涼しい日が続き、また梅雨前線も活発であった。昨年に比べると雨量は250%とのことで、そのためキノコがあちこちで生育していた。

毎年参加の小学生の「キノコ博士」がいれば教えてもらえるのだが、私ではキノコの種類を鑑別することは難しく、写真以外にも名前不明のキノコが多く生えていた。

AIを使って何とか「ヒイロタケ」「キイロイグチ」「オオホウライタケ」「ベニタケの仲間」は鑑別することが出来た。

この梅雨時の野草の花では名前も「ツユクサ」が有名である。

6月の花の代表であるアジサイの花は雨が降り続いたためか、時期が過ぎた感じであった。

去年は探さないと見つからなかった「ネジバナ」が今年はあちこち群生していた。

逆に「ブタナ」は、去年は一杯咲いていたが今年は、まばらであった。

ジャノヒゲ(根っこは、麦門冬として咳止めに使われる)の可憐な花、道路脇でよく見かける外来種の「ハルシャギク」や「ヒメジョオン」が雨の中、生き生きと花を付けていた。

この時期の明德公園の目玉は、何といても「ハンゲショウ(半夏生)」である。

今年は時期が良かったのか、写真のように、ハンゲショウの群生は見事であった。

その代わり、同じ場所に見られる「キツリフネ」の花を隈なく探したが今年は見つからなかった。

もうひとつの目玉「ネムノキ」の花は、雨に打たれて花は縮こまり、カメラのレンズも曇り、ぼやけた写真しか撮れなかった。

雨がひどくなってきた。乾いた布で何遍もレンズを拭くが曇りは取れない。

それでも、何か珍しいものがないかとあちこち歩いてみたが、何も見つからなかった。

ふと見ると、カタツムリが「そんなに焦らず、マイペース!」と言っているように見え、和田アキ子の「土砂降り～の雨の中で、私は歩～く。ひとりぼっちの散策会…」とつぶやきながら終わることにした。取りあえず、報告書の準備は出来た。



ヒイロタケ



キイロイグチ



オオホウライタケ



ベニタケの仲間



不明



不明



ツユクサ



ガクアジサイ



カシワバアジサイ



ネジバナ



ブタナ



ジャノヒゲ



ハルシャギク



ヒメジョオン



ハンゲショウ



ハンゲショウ



ネムノキ



カタツムリ